

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2434 号

19 世紀における西洋美術解剖学の歴史：日本の美術解剖学の前史として

(History of the Western artistic anatomy in the 19th century - Prehistory of artistic anatomy in Japan)

加藤 公太 (かとう こうた)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、19 世紀西洋における美術解剖学の歴史に関する論文であり、医学と芸術双方の歴史を基礎とする研究成果である。19 世紀の美術解剖学は、海外のメディカルイラストレーションの教育および日本の美術解剖学の前史となっている。

19 世紀の歴史は、教科書の出版数や内容の変化から 3 期に分ける事ができ、前期には彫刻作品の解剖図譜が出版され、中期には体表解剖学と運動生理学といった教育方法が新たに導入された。後期にはそれらを編纂した教科書が生まれ、現代に続く教育方法が確立された。

20 世紀にマックス・ブレーデルによってジョーンズホプキンス大で導入されたメディカルイラストレーションは、19 世紀の美術学校の教育方法が基礎となっている。美術解剖学とメディカルイラストレーションに人的なつながりは少なく、それぞれの領域の解剖図の表現には、美術体験と医学体験に基づく差異が見られた。

日本の美術解剖学は、明治時代に輸入され、工部美術学校では大熊氏廣らによってイタリアの美術解剖学書が教育に使用されていた。東京美術学校では、森鷗外によってドイツの教科書が使用され、その後任の久米桂一郎によってフランスのポール・リシェによる教科書が使用された。久米の教育方法は、現代まで続いている。従って現代日本の美術解剖学教育は 19 世紀に根ざしていることが明らかになった。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。